

Campus Magazine



平成30年8月3日(金)

ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊学生ボランティア参加

多様な人々との共生や関わり方について学び、社会と自己の現状を知り、専門職としての未来に向け、さまざまな人との協力の大切さや連携の可能性を体感した1日でした！



- 「高齢者の方や障害者の方と共に生きるということ、短い時間ではありましたが実感することができた。」
- 「参加者の方との交流を通じて、障害のある方に対する話し方、目線の合わせ方、接し方を学ぶ事ができた。9月に実習が控えているので、良い経験になったと思う。」
- 「指示をしっかりと聞くことと指示される前に自分から行動することの大切さを学んだ。」
- 「作っている時も配膳している時も立ち仕事が多く大変だった。自分たちが用意している食事を食べてもらい、おいしいと言ってくれて嬉しかった。」



- 「初めての設営に関するボランティア活動でしたが、人の役に立てている実感が湧いて良かった。このような祭りなどのイベントの裏には、今回のようにたくさんの人の支えがあることに気付いて良かった。」

- 「参加者の方々との関わりで学ぶことだけではなく、その参加者を取り巻く医療従事者などのボランティアの方々の様子を見て、自分の未熟さや、現状を見ることが出来、授業を聞いて学べるのではないことを学ばせていただきました。」
- 「車椅子の扱い方や参加者さんのことを考えながら行動することは今後生かして行けると感じた。また、他学科の学生や様々な人と協力し、連携を取れたのもこれから役立てて行けると感じた。」



サークル

サッカーサークル

サッカーサークルは、水曜日と Saturday に活動しています。青森県立保健大学では男子生徒が非常に稀であり、現在選手が全学年合わせて 20 人程度しか所属していません。冬などのサッカーができない季節（俺たちのサッカーを返せえ！）は大会が少ないですが、春から秋にかけては大きな大会が二つあります。地元の社会人チームが参加する大会なのでなかなか熱い戦いをしています。試合があるため忙しいと思われることが多いですが、そんなことはなくみんな楽しくサッカーをして勉強のストレスなどを発散しています。マネージャーさんもたくさんいて和気あいあいと活動しているので興味がある方はぜひサッカーサークルにお越しください。



三味線サークル

私たちは、現在 16 人で活動しており、学外のプロの先生が津軽三味線と民謡を教えて下さっています。

主な活動は、施設や町内会サロン・病棟等での依頼演奏や、大会への出場、大学での公開講座・大学祭での演奏です。今年は大学 20 周年セミナーでの演奏もさせて頂きました。大会成績は、5/3,4 に行われた「津軽三味線日本一決定戦」の団体りんごの部では 3 位、9/15,16 に行われた「津軽三味線腕くらべ」の団体 A で 3 位という結果でした。その他にも個人部門にて、三味線や民謡で入賞しています。津軽三味線は難しいと思うかもしれませんが、サークルメンバーはほとんど初心者で、最初は構え方や叩き方から教わりました。

活動する曜日は特に決まっていませんので、普段は自分たちのペースで和気あいあいと練習をしています。少しでも興味をもって頂いた方は、津軽三味線サークルへの加入をお待ちしております！



発達保障研究会

発達保障研究会は、18 歳以上の軽度の知的障害を持つ方に対して、学習と交流の場を企画・提供するボランティアを行っています。昨年、私たちの活動が文部科学大臣に表彰され新聞に掲載されました！私たちのサークルの活動は主にオープンカレッジやお花見交流会、クリスマス交流会です。

オープンカレッジではボランティアの学生を募り、外部の講師の方を学内にお呼びして、スポーツ系、文化系の講座を障害者の方と一緒に受けます。過去に 3B 体操やハンドベル、サイエンスマジック、絵はがき、レクリエーション、生け花などの講座を行いました。

お花見交流会では大学の近くの合浦公園で桜の木の下でレクリエーションをしたり、知的障害の方と屋台巡りをしたりします。

はつけんの活動は毎回ボランティアを募集しているため、興味のある方は参加してみませんか？



ル活動

アカペラサークル



みなさん、アカペラというものをご存知ですか？ここでいうアカペラは、人の声だけを用いて4～6人でリズム・ハーモニー・メロディーを奏することを指します。アカペラサークル IN CHAPEL は、このアカペラを通して学年・学科間、そして他大学との交流も深めています！

アカペラの魅力は、楽器がなくてもロック・ジャズ・ポップ、邦楽でも洋楽でも、好きな音楽をカッコよく奏でることができることです！現に、サークル長を務めている私も音楽経験は一切なく、歌うことだけが好きでアカペラを始めました。アカペラサークルでは、そんな人を対象にしたミニ講座を実施したり、外部から講師の方を呼んだりすることもあるので、初心者も安心です！それに加え、クリスマスライブやキャンプなど、季節ごとのイベントが盛りだくさん！音楽が好きな人、交流の輪を広げたい人、楽しいイベントで思い出作りしたい人、どんな理由でも構いません。興味があったらぜひサークルやライブを覗きに来てください！

書道サークル



私たち書道サークルと吹奏楽サークルは、岩手県野田村保健センターで行われた、「野田村ボランティア祭り」へ参加してきました。天候はあいにくの雨で、屋内での実施となりましたが、予定通り書道サークルは書道パフォーマンスを、吹奏楽サークルは様々な曲の演奏を行わせていただきました。各サークルが練習の成果を存分に発揮し、野田村の皆様を元気づけることができました。また、発表後には、野田村の子どもたちと七夕の飾りや短冊作りを行ったり、野田村の皆様と交流を深めたりしました。この活動を通して、皆で何かを作り上げることの楽しさや、地域の方々との繋がりが大切であるということ学びました。このような機会をいただけたことに心から感謝し、これからも積極的に活動していきたいと思います。

陸上サークル



「楽しむ心を忘れない」

陸上競技サークルが大切にしていることは楽しむ心です。活動内容は週5日の練習、大会への出場、合宿(春、夏の2回)、体力測定も行っています。メンバーのほとんどはアルバイトをし、学校のテストは再試厳禁です。私たちは、辛い練習のとき、テストやレポートで忙しいとき、アルバイトの多忙期、水たまりに足を入れてしまったとき、どんな状況をも楽しみ、サークルのみんなが頑張っている姿を見て、自分も頑張ろうと奮起します。走ることはもちろん、みんなと過ごす時間が楽しいから、サークルに行きたいと思えます。

詳しい活動内容は、大学のホームページにも掲載されておりますので、ぜひご覧ください。

オープンキャンパス

夏本番の8月5日(日)に「オープンキャンパス 2018」を開催しました。猛暑にも関わらず、県内外から多くの高校生・受験生とその保護者にご来場いただき、キャンパスは熱気に包まれました。

オープンキャンパスは保健大学を目指す高校生・受験生の皆さんにホームページや大学案内では分からない教育や研究などを体験的に理解していただくために毎年開催しています。

各学科の魅力的な講義を一足先に体験できる模擬講義や趣向を凝らした各学科の体験・見学コーナーの他、入試や学生生活など、高校生・受験生の皆さんが在学や教員の話に熱心に耳を傾ける姿が見られました。

多くの高校生・受験生とその保護者が、キャンパスに実際に足を運び、本学の魅力を感じてもらえたことが、来場者の雰囲気やアンケート結果からも伝わってきました。

◆オープンキャンパス2018の様子◆



看護学科



理学療法学科

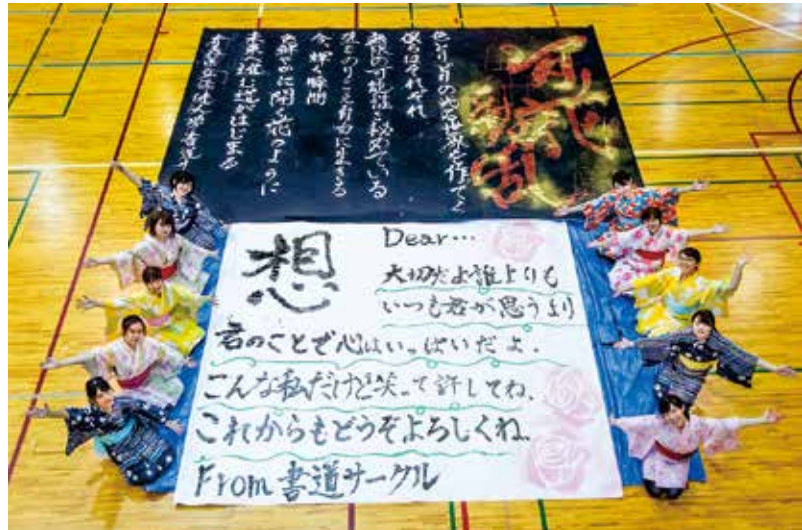


社会福祉学科



栄養学科

大学祭2018



今年の大学祭は、前夜祭も含め10月5日(金)、6日(土)、7日(日)の3日間にわたって開催いたしました。台風の影響により、日曜は屋内でのみの開催となりましたが、無事大学祭を終えることができました。

今年度は開学20周年ということもありテーマを「Everyone is an architect of the next 20 years」とし、例年行われているヘルスリテラシークイズやサークル等による出店、発表に加え、舞の海秀平氏による講演会、マグロの解体ショーを行いました。

学生だけでなく地域の方にも楽しんでいただけたのではないかと思います。



今年度の大学祭も、実行委員だけでなく、ご来場いただいた皆様、多くの学生や先生方、地域の方々、各関係者の皆様のご協力を得て、作り上げることができたと思います。本当にありがとうございました。

大学祭実行委員長 神永 彩那

就職活動支援

就職活動セミナーでは、外部講師による「ビジネスマナー」、「自己分析」、「応募書類の書き方（志望動機）」、「面接の受け方」等のレクチャーを行っています。学年あるいは学科に分けて年に18回開催しています。

また、学科毎に卒業生を招き、現在の仕事や職場のこと、就活のコツを伝授してもらう「就職ガイダンス」はどの学科

も好評で、ガイダンス後は卒業生が在學生に親身に個別相談に応じています。さらに、年に3回、本学主催による就職説明会を開催しており、200ヶ所以上の事業所が参加します。他にもハローワーク出張相談会や公務員試験対策学内講座など、学科や職種に応じたきめ細やかな支援を行っています。



就活セミナー写真4年生「面接の受け方」(4月20日開催)



社会福祉学科就職ガイダンス(7月20日開催)

国家試験対策(社会福祉学科)

社会福祉学科では、社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験受験資格を得ることが出来ます。どちらの国試も年度による凸凹はありますが、ここ数年は全国レベルで見ても非常に高い合格率です。その為か、時々どのような受験対策を行なっているのか尋ねられるのですが、この結果は、学生たち自身の努力の賜物と言えましょう。

具体的な支援としては、国試受験体験報告会の実施、模試への参加勧奨、模試の結果を受けての国試対策講座の実施です。いずれもほぼ全員が参加します。これら他には国試関連情報の提供、過去問集等の配置・整備(写真右)、受験勉強のための部屋の提供(写真左)などです。学生たちは、それぞれに合ったスタイルで互いに励ましあいながら学習をしています。



COC+事業「女子学生のキャリア支援プログラム」の取組

平成27年から弘前大学が代表校で「オール青森で取り組む地方人財育成・定着事業」が展開されています。この事業には、県内の主な大学・県・市が参加しており、本学も協定を締結し、「女子学生のキャリア支援教育プログラム開発」のリーダー校として、他大学とともに事業に取り組んでいます。本年の主な活動を述べます。

- 県内大学生への就職地決定要因アンケート調査結果を、県の協力を得て分析しました。分析結果は「アウトルックレポート」に掲載され、県の施策立案の基盤データとなりました。
- 学生向けセミナーは、自分の年齢に近いゲストの働く経験を聞き、話し合いを通じて、自分のキャリアの方向性を探る「くらす? はたらく?」シリーズとして、6月30日(土)「session4 ~ライスワーク? ライフワーク~」を開催し、10月27日(土)には、弘前医療福祉大学にて「session2 ~お金? 時間~」を開催しました。

- これまでに主に看護職や福祉施設向けに実施していた企業向けセミナーは、青森県から委託を受け、一般企業対象の「多様性(ダイバーシティ)のある職場づくりのための実践セミナー」として、11月27日(火)に開催しました。

今後も意欲的に事業展開していきますので、ご注目いただけますと幸いです。

「session4 ~ライスワーク? ライフワーク~」のチラシ(左)

「多様性(ダイバーシティ)のある職場づくりのための実践セミナー」のチラシ(右)



「session4 ~ライスワーク? ライフワーク~」の様子



さらなる飛躍に向けて (大学院の研究)

将来、より高度な専門職業人や研究者として働きたいとお考えの皆様、卒業後の進路として、「大学院」も将来の選択肢の一つとしていかがでしょうか。本研究科の特色です。

(1) 多職種との連携や専門分野を超えた学際的研究をめざす大学院

多職種との連携や学際的研究をめざして「保健・医療・福祉政策システム」、「対人ケアマネジメント」、「基礎研究・実用技術」の3つの研究領域を設け、自分自身の研究テーマを持ちつつ、「多職種との連携」をより意識した学びをめざしています。

(2) 「CNS(専門看護師コース)」の開設

特に、県内で唯一のがん看護のスペシャリスト(がん看護専門看護師)の養成コースを開設しています。

(3) 社会人が働きながら学べるカリキュラムの設置

講義や演習科目については、自らの研究課題やキャリアパスに応じて柔軟に履修できるようにしています。社会人が働きながら学べるように土日や夜間の授業も開講しています。

研究室の紹介

保健・医療・福祉政策システム領域／地域保健研究室 古川 照美 教授

当研究室では、現在5名の大学院生が、行政、医療機関、会社、大学で勤務しながら、その中で得られた研究テーマを大切に、生活習慣病予防、ヘルスリテラシー向上、社会参加活動や組織のソーシャル・キャピタル、子育て環境など、いずれも地域での保健・医療・福祉に関する活動の中から浮かび上がる課題の解決への示唆を得るようなテーマに取り組んでいます。研究で得られた成果を地域に還元できるよう研究活動をすすめていきます。



保健指導をしている風景

対人ケアマネジメント領域／実践看護技術研究室 福井 幸子 准教授

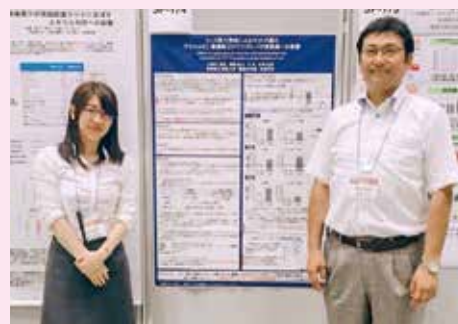
当研究室は、看護援助に必要な理論や概念について学び、実践と研究への適用を探究する開設2年目の研究室です。看護援助の在り方や患者の反応について、臨床で生じた疑問をもとに文献を通してディスカッションし、研究課題への取り組みをサポートします。今年度、入学した院生の研究テーマは、脳卒中の再発予防に有効な看護に関する研究です。現在は、患者の行動変容とそれに影響するものについて、臨床での現象や文献を用いてディスカッションし、有効な看護を探るための準備を進めています。



文献を用いたディスカッションの様子

基礎研究・実用技術領域／食品開発・安全学研究室 井澤 弘美 准教授

当研究室所属の博士後期課程の学生は、ビタミンCの吸収を促進する物質の探索とそのメカニズムの解明に関する研究を培養細胞や実験動物を用いて行っております。どうやらリンゴにその作用があるようなので、詳細を研究中です。その他に、学部学生が鉄の栄養素としてのホヤの可能性に関する研究やリンゴ発酵物の機能性に関する研究、PM2.5を経口摂取したときの毒性影響に関する研究等を行っており、これらの研究を昇華させてくれる院生を募集しております。



学会発表の会場にて

お知らせ

大学院担当教員の「研究室」紹介は、大学院のQRコードをご覧ください。



保健大学の「世界に向けて!」の活動

本学の5つの「使命」のうちのひとつに「グローバルな視野をもって活躍できる人材の育成」があります。今回はそのための取り組みについてご紹介いたします。

1. 学部の科目における英語教育

本学では、1, 2年時の英語授業を必修科目とし、ネイティブスピーカーによる少人数教育を行い実践的な英語に力を入れています。また、短期海外研修を選択すると、イギリス（ブライトン）やオーストラリア（シドニー）に3週間語学学校に通い、ホームステイをしながら異文化交流、異文化体験もできます。毎年、合計15名ほどの学生が参加しています。



イギリス短期海外研修の様子

2. 海外の大学との連携・交流によるグローバル体験

これまで、海外の2大学と国際交流協定を結び大学間連携をしてきました。特に、米国ベレノバ大学とは2004年から交流が続いており、今年度は教員を含め10名が本学で約1週間の看護研修を受け、学生との交流を図ってきました。



ベレノバ大学の研修生との交流

また、今年度は本学の大学院生がベレノバ大学に行き、海外での研修がスタートしました。アメリカの看護教育や看護実践を学びながら国際的な視野を広げることを目的とし、アメリカの病院見学や大学院の授業参加、院生同士の交流、ディスカッションなどのプログラムを9月に終えてきたところです。

3. グローバルな視野から健康や生活を考える機会

住民対象にもグローバルな視野から健康を考える機会を作っています。「国際交流講座」では、若い人から高齢者まで国際協力や海外支援を考える機会をもち、「国際科講演会」では、今年度は食の観点から海外とのつながりを考え、健康を考える機会を提供しました。

4. 今後のさらなる活動

ベトナム国ナムディン看護大学との連携協定と今後の方向

ベトナムでは、栄養士制度やその大学教育カリキュラムなどが確立していないために、十文字学園女子大学と共同で、わが国の豊富な経験を生かした連携・協力を検討してきました。本年9月からナムディン看護大学に「栄養学科」が新設されたことに伴い、栄養学の学部教育、大学院での研究交流を目指して、9月24日にベトナム国立栄養研究所を含めた3者による連携協定が結ばれました。今後、栄養学科学生や大学院生の相互交流が期待されます。



連携協定調印式で、栄養学科新入生とともに

詳しくは国際科HPをご覧ください



卒業生からのメッセージ

尾地麻奈美(青年海外協力隊ブータン派遣; 栄養学科2期生(2012年度卒業))

私は現在ブータンの国立病院で青年海外協力隊栄養士隊員として活動しています。

中学生の頃から途上国に興味があり、実際に自分の目で見たいという思いと自分にも何かできることがあるのではないかとこの考えから、関東で3年半程病院勤務を経た後参加しました。

配属先では入院患者さんの状態を確認して経管栄養剤を調理、業務に役立つような媒体や資料を作成しています。配属先以外では、助産師隊員と離乳食の啓蒙活動や、学校隊員と健康教育を一緒に行っています。

ブータンの方々のお役に立てたことはあったかと思いますが、自分が何かを変えるという考えはおごりだったと痛感しています。日本でブータンは幸せの国と言われていますが、約2年暮らしてみてそれは違うということがわかりました。実際に自分で見てみると、経験してみないとわからないことがたくさんあります。私は今、日本にいたらできない貴重な経験をさせていただいています。



健康教育(虫歯予防)の様子

保護者等(後援会)懇談会

今年度は大学祭初日の10月6日(土)に開催され、42組65名の保護者の皆様にご参加いただきました。

最初の全体会では、学長ほか本学の主な教員からカリキュラムの概要や学生生活支援、就職支援状況等及び大学院の概要について説明をさせていただきました。

次の学科別プログラムでは、各学科の特色を踏まえた教育内容、学生生活及び就職に関する支援の状況等について説明をさせていただきました。

最後の個別相談会では、それぞれの学科の教員が保護者の皆様からのご相談を個別にお受けしました。

ご参加いただいた皆様との対話を通じて、今回の懇談会が保護者の皆様と本学との相互理解を深め、本学の今後の教育研究活動と学生支援のあり方について共に考える貴重な場となりましたことを深く感謝申し上げます。



斎藤後援会長からの挨拶



全体会の様子(壇上は上泉学長)

『ヘルスリテラシー』コラム

本学ではヘルスリテラシー推進事業に継続的に取り組んでいます。その一環で3年前より学生と教員が協働し独自企画した事業を年度ごとに「ヘルスリテラシー向上サポート活動」として認定し、支援しています。今年度も4件の活動が進められています。その内容を表に示します。

また、大学祭でのブース開設も行っており、4年目になる今年度は「CHL~Challenge for Health Literacy~ 健やか力への挑戦」をテーマに、本学4学科の特徴を活かした以下のブースの開設を行いました。またこの機会に、前述した今年度の「ヘルスリテラシー向上サポート活動」の中間報告を行いました。

チーム名	活動名
ヘルスリテラシー向上部	ヘルスリテラシー向上活動
Link Plus	青森県立保健大学版Link toposを立ち上げ、拡大を図るための活動
チーム家族	元気フェスタPart IV
おかず味噌汁健やか力向上委員会	おかず味噌汁を食して健やか力を向上させよう運動(フェーズ4)

- 看護学科…血管年齢、内臓脂肪測定、健康相談
- 理学療法学科…骨密度測定
- 社会福祉学科…箱庭づくり~こころの健康も大切に~
- 栄養学科…食育SAT(サツと)システムによる普段の食事の栄養価測定



看護学科

学内ホームページ「ほすこやかナビ」にヘルスリテラシー活動を紹介しております。ぜひ立ち寄ってみてください。



←このバナーが目印です！



理学療法学科

平成31年2月2日(土)
健やか力検定(ヘルスリテラシー向上部)
平成31年2月3日(日)
元気フェスタIV(チーム家族)を開催します！
詳しい日程などは、ホームページでお知らせしますのでご覧ください。



社会福祉学科



栄養学科

発行：青森県立保健大学 広報委員会・青森県立保健大学 後援会



公立大学法人 AOMORI UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE

青森県立保健大学

〒030-8505

青森県青森市大字浜館字間瀬 58-1 電話 017-765-2000(代表)・FAX 017-765-2188 URL <https://www.auhw.ac.jp/>